

# **「青森県在宅保健師の会」の歴史紹介と 活動の概要について**

# 1. 設立

- 平成10年4月27日の設立総会にて「青森県保健婦の会」として誕生
- 設立にあたって在宅保健師の組織化が必要との声をうけ、6名の発起人の方々による会結成に向けた話し合いに加え、国保連合会の力強い支援がありました。

## 2. 目的

地域における保健活動の重要性を認識し、地域住民の健康づくりを支援するため、保健師資格を生かし、地域の保健・福祉活動に寄与するとともに、会員の資質の向上を図ることを目的とする。



### モットー

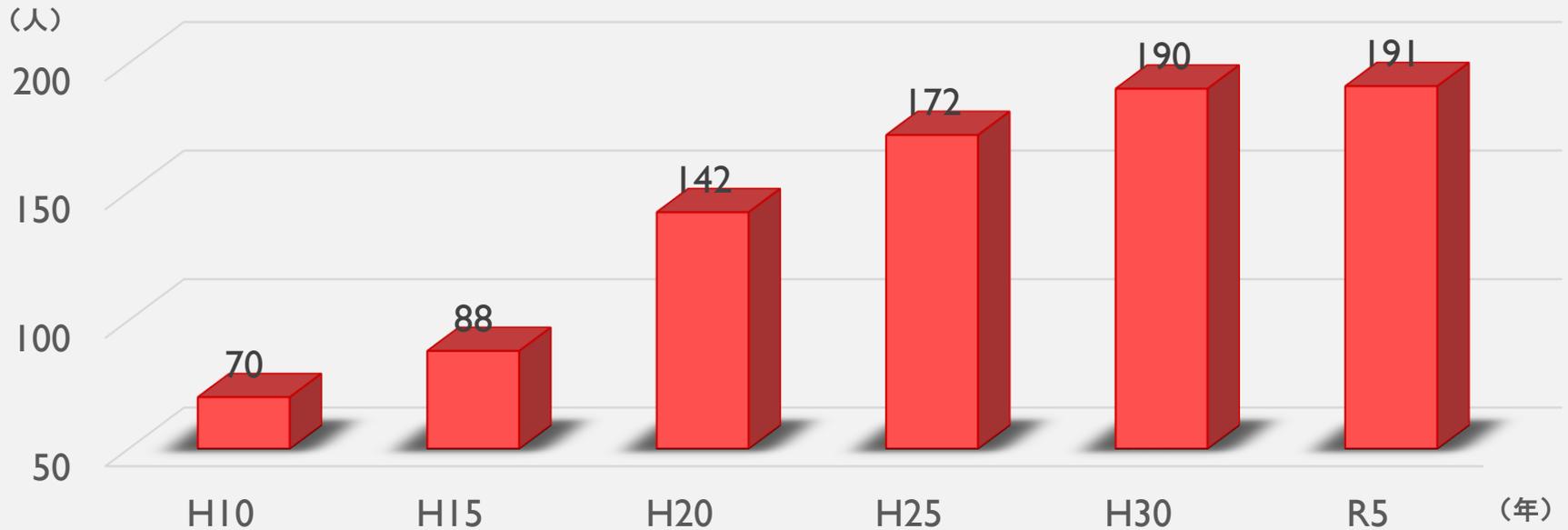
- 会員の自主的な保健福祉活動を尊重し、支援する。
- 市町村や県など関係機関等との連携のもと現職保健師が実施する保健福祉活動に積極的に協力する。
- 保健師としての知識・技術等の質を担保するため会として研修を開催するなど常に情報発信していく。

### 3. 会のあゆみ

年月	実績
平成10年 4月	「青森県保健婦の会」設立、会員数70名
平成18年	保健協力員会の県組織化への全面支援
平成19年	「青森県在宅保健師の会」に会の名称を変更
平成20年	青森県新任等保健師育成支援事業にトレーナー保健師として協力（令和4年度で事業終了）
平成22年12月	青森県健康づくり事業功労者等表彰受賞
平成25年 5月	東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状受賞
平成26年 3月	公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰受賞
平成26年	地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業にアドバイザーとして協力 小規模保険者支援事業に協力
令和3年	新型コロナ支援として、IHEAT登録し保健所の疫学調査、ワクチン接種支援に協力

# 4. 会員の概要

## (1) 会員数



## (2) 会員の年齢構成(R5.5.31現在)

年代別 内訳	30歳 代以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	年齢 不明
人数(人)	2	7	13	71	77	15	3	3
割合(%)	1.0	3.7	6.8	37.1	40.3	7.9	1.6	1.6

# 5. 会の活動

- 1 総会（年1回）
- 2 役員会（年4回）
- 3 研修会
  - ①総会時研修
  - ②在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会並びに研修会（6ブロック）
  - ③その他
- 4 地域の保健・福祉活動支援事業
- 5 会報の発行（年3回）
- 6 県・市町村・国保連合会等からの要請事業等への支援・協力
- 7 その他



# 研修会：在宅・現職保健師保健所ブロック別研修会

## 【目的】

- 管内の**在宅保健師と現職保健師（県・市町村）**が一堂に会して学び、情報共有することにより、市町村における効果的な保健事業の推進に寄与する。

## 【対象】

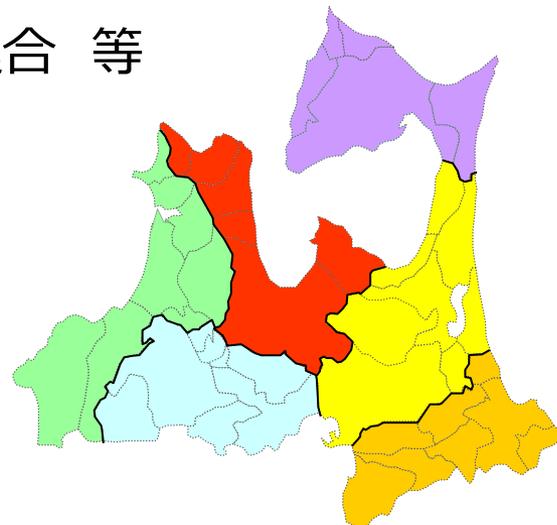
- 在宅保健師の会会員、現職保健師、管理栄養士・栄養士（市町村・県）  
その他の関係者、県、後期高齢者医療広域連合 等

## 【開催地域】

- 県型保健所管内別（6ブロック）

## 【その他】

- 研修会に併せて在宅保健師の会として  
地区別交流会を開催



# 研修会：在宅・現職保健師保健所ブロック別研修会

## 【実績】

\* R3は新型コロナにより中止

年度	テーマ	保健師の参加状況		
		在宅	現職	合計
H30	保健所管内の健康課題	53人	67人	120人
R元	高齢者のフレイル予防と低栄養対策	63人	97人	160人
R2	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	61人	90人	151人
R4	オーラルフレイルの予防～科学的介護と実践の基礎知識～	57人	59人	116人
R5	転倒予防のための運動	69人	55人	124人



## 【現職保健師の声】\*R5年度

- ・在宅保健師の方々の活気を感じ、この地域を支えてきた先輩方を知ることができた。
- ・一体化事業の参考にもするよう課内に持ち帰りたい。
- ・通いの場での運動が、大変参考になった。
- ・また来たいと思う人が多くなる会だったと感じた。

# 地域の保健・福祉活動支援事業

【令和5年度助成団体】 4団体

団体名	設立年	支援年数	主な活動内容
飯詰ふれあっこ	H31年	5年目	簡単な健康チェック、津軽弁ラジオ体操、姉さんかぶり作り、絵手紙作り、食改との連携事業、脳トレゲーム等
ラジオ体操とワイワイロコトレの会	R2年	4年目	足裏の刺激運動、準備体操（ラジオ体操第1、第2）、ストレッチ体操、筋肉トレーニング（ゴムバンド、ボール使用）、タバタ体操、認知症予防トレーニング等
来てみんな	R4年	2年目	定例の集まり会、ウォーキング、ランチ交流会等
交流白石分館 ほのぼの会	R5年	1年目	健康体操・フレイル予防、レクリエーション（ゲーム）・創作活動等、おしゃべりタイム、世代間交流（こども会）等

## 【助成対象活動】

- (1) 乳幼児及びその親を対象とした子育て支援活動
- (2) 児童期・思春期・青年期を対象とした保健福祉活動
- (3) 高齢者の健康増進や介護予防、認知症予防等を目的とした保健福祉活動
- (4) 障がい者の健康増進や社会復帰支援を目的とした保健福祉活動
- (5) 地域コミュニティを活用した保健福祉活動
- (6) その他、在宅保健師の会役員会において、助成が認められた保健福祉活動

事業開始から延べ  
21団体に助成

# 市町村・国保連合会等からの要請事業等への支援・協力

※令和5年度実施事業

## 1 青森県保健所保健師支援事業（主催：県）

アドバイザー保健師4名、4保健所

## 2 市町村新任等保健師育成支援事業等（主催：市町村）

トレーナー保健師各町1名、2町（平内町、横浜町）

※県と国保連の共同事業である「新任等保健師育成支援事業」は令和4年度で終了

## 3 小規模保険者支援事業（主催：国保連合会）

中泊町に対し在宅保健師等 10名

### 【目的】

- 小規模保険者における国民健康保険の医療費適正化と保険者の健康づくりを支援し、市町村としての地域保健活動推進に寄与する。

### 【内容】

- R5年度：糖尿病重症化予防事業への支援（調査訪問）



## 6. 本会の役割

保健師は退職しても、生涯保健師として地域を支える存在である。在宅保健師の会は、これまで同様に在宅保健師として地域活動を地道に続けるとともに、その経験を活かし現職の活動の支援にも参画するなどし、**保健師活動の「知」を伝承**していく役割を担っている。

在宅保健師の会で  
大事にしていること

- ★相互に顔を合わせて意見交換・情報交換できる機会を大事にする。
- ★現職保健師も参画できる内容の取組を計画する。
- ★会員からの声を大事にする。

**これからも皆で  
手を取り合って頑張っていきましょう!!**

